

会議録（要旨）

会議名称：第3回 上島町学校の在り方検討委員会

開催日時：令和7年7月27日（日）10:15～11:40

開催場所：弓削地域交流センター 大ホール

出席委員：16名

欠席委員：2名

事務局：学校教育課

会議次第：1 開会

2 教育長挨拶

3 議事

(1) 統合の形態について

(2) 統合時期について

(3) 今後の検討委員会の予定

4 閉会

1 開会

2 教育長挨拶

3 議事

(1) 統合の形態について

(2) 統合時期について

（事務局 B）

統合の形態について、前回の意見を抜粋して掲載した。

今後の児童生徒数の推移や教育環境を最優先に考え、A小・中を除く、小学校1校、中学校1校での統合を目指すことにしたい。答申に記載してよろしいか。

（委員 A）

前回までは、統合について、具体性に欠けていた。だからクリアする条件について話されてない。統合を主にして考えるのであれば、1か所ずつ統合先について、子供にとっていい条件を考えていく必要がある。例えば、体力面、通学面等。ここは検討会だから、肩書きを考えず自分の意見として話し合うべきではないか。

（委員 K）

今の提案のように考えるのであれば、統合の形態から話すのはよろしくないのではないか。

（事務局 B）

ここは検討委員会なので、話し合った内容を答申にして教育委員会に提出していただきたい。

（委員 K）

資料中の上島町個別施設計画（令和３年３月）によると経過年数が５１年以上のものは大規模改修を行わないとある。こういう条件を出して、話をしないと時間がもったいない。ただし、話をして覆るのであれば、話すべきだと思う。できることとできないことをあらかじめ出してから議論しないと机上の空論になる。具体的に場所を決めて話をするべきだと考えるかどうか。

（事務局Ａ）

Ｄ小校舎について、令和９年度で目標耐用年数６０年を迎え、それより新しい校舎があるため大規模改修の予定はないと第１回で回答している。今回の資料についてもその旨を記載している。

（委員Ｊ）

前回は案にＤ小が入っていた。それでＤ小の保護者に伝えていた。しかし、今回の資料には、耐用年数の関係でＤ小が案から外れた。保護者にどう説明したらいいのか。建て直す可能性はないのか。耐用年数は何年も前からわかっているはず。建て直す予算がどれくらいかかるか、可能なか等の情報がほしい。地域感情を察していろいろ考えられてはいるが。

（委員Ｅ）

Ｄ小は５０余年経過しており、改修等できないのは確かである。使い続ける場合には、何かあったら保証しなければならない。それができないのなら、建て直しをすべき。建て替える場合、国の補助は最大１／２で、残りは町から支出である。これは町民の税金である。使用可能な建物があるのだから、Ｄ小の継続使用は排除すべきである。予算面、教育面、通行面を考慮し少しでも良いところを選ぶべきではないか。建て替えは無理ではないか。

（委員Ｊ）

そのことをわかりやすく、保護者に伝えなければいけない。

（委員Ｅ）

５０余年経過しており、建て直しは金銭的にも行わないと説明すべきである。

（委員Ｊ）

建て直す可能性はないと伝えていいのか。

（委員Ｅ）

大規模改修は行わないと資料にもある。

（委員Ｊ）

０％でいいのか。

（事務局Ａ）

現在の方向性としては、大規模改修も建て替も予定はないということである。

（委員Ｊ）

０％ということではいいか。

（事務局Ａ）

現在のところ、そういうことである。

(委員 E)

1 校に統合するのであれば諸条件をクリアしたところにすべきである。金銭的にいくらでも掛けられるのであればいろいろできる。金銭的なことを考えるとどこに統合しても、車で 30 分程度であり、歩くのでないならば、それほど遠くない。どこに統合しても、基本、バス通学できると教育委員会が言えればいい。具体的な意見を出して教育委員会に依頼すべきである。

この要綱によると、今回は提言であり、決定ではない。提言を基に最終的に判断するのは教育委員会である。もっと意見をいろいろ出すべきではないか。D 小改修等しないということなので、統合先から外すべきではないか。私の意見としては、C 小である。グランドの件はあるが、校舎は収容可能であれば、1 番新しい。全体的に考えていけば、いいと思う。

(委員 K)

教育委員会に確認すると、本会は検討委員会なので、様々な意見を出し合うのは、良いと思う。しかし、町としての条件を出した上で、まず小学校を検討してもよいのではないか。そうすることで、様々な意見が出てくると思う。この次第通りには進まないのではないか。

(委員 J)

D 小保護者の意見では、中学校を活用して、小中一貫校にし、D 地区に残したいとの意見が出ている。

(委員 A)

今のように遠慮せず、具体的な意見が多く出る検討会にするべきである。例えば D 小について絶対無理なのか。3 島あるから、地域住民はそれぞれ自分の島の学校という意識や学校愛がある。学校が無くなるのは寂しいのは当たり前で当然、反対意見も出る。そこを加味しながら、進めるのが難しい。候補地を 1 校ずつ絞って話を進めてもよいのではないか。

もう 1 点、自宅に無名に投書があった。なぜ、複式学級がいけないのかという反対意見があった。

(委員 J)

内容を詳しく発表すべきである。

(委員 A)

1 校統合についての話が進まなくなる。

(委員 J)

こういう意見も大切である。

(委員 A)

各校の話になった時に発表するつもりである。

(委員 L)

全く議論が進んでいない。統合するかどうかは、もう決めるべきではないか。これを決めたところでどれだけ話しても終わらない。1 校ずつの検討ではなく、もっとスピード感を持ってやってほしい。生名地域は、時間的に余裕がない。このペースだと遅い。意見を出すのも良

いが、まず方向性を決め、それに対して、話をした方がスピード感がある。親の気持ちでは、各島の学校はなくしたくない。当然である。地区住民も、同様であると思う。しかし、これはOBのエゴではないか。今の子供たちのことを考えると、統合しかないのではないか。検討委員会では、子供のことを優先してください。前回も言ったが、予算等は議会と町が考えればいい。できないことはできない。この会には子供のことを考えて、学校の在り方を検討していく会である。もっとスピード感を持ってやっていきたい。

(委員 E)

教育委員会は前回の議論を踏まえ、小学校1校、中学校1校での統合での答申としてよろしいかと冒頭で問い掛けられた。これについて意見を出し合い、協議すべき。今日の会で1校統合の方向で提言を出せば、次に進むのではないか。教育委員会は小学校1校、中学校1校で進めるように考えるよう発言があったと思うが。

(事務局 A)

教育委員会が1校にするよう依頼しているのではなく、前回の協議内容を踏まえ、1校統合が多く出されていたということである。

(委員 E)

統合をする方向でよいのか。

(事務局 A)

令和4年度に現状維持という方向性を出し、次回、つまり本検討委員会で統合、適正配置について考えるということであったので、今回は統廃合について考えていきたいということである。

(委員 K)

B 保育所保護者会としては、統合はいいが、場所や校数についての話はしておらず、小学校1校、中学校1校には合意できない。持ち帰り検討したい。

(委員 I)

C 地区では検討済みで、1校統合は賛同を得ている。C 小 PTA では、賛成である。

(委員 K)

1校統合に賛成か。

(委員 I)

その通りである。

(委員 K)

場所はどこでもいいのか。

(委員 I)

場所はどこでもいい。

(委員 J)

C 小をなくしてもよいということか。

(委員 I)

そういうことである。

(委員 J)

C 地区に残したいとの発言もした方がいいのではないか。

(委員 I)

C 地区としては、C 地区以外でもいいという意見も多い。残したいという意見もある。しかし、C 地区としては、保育所統合との絡みで 10 年度での統合を最優先に考えている。C 地区でなくなったとしても構わないという意見が多い。

(委員 J)

D 地区でも 1 校に絞るということを伝えた。しかし、2 校統合で、D 小を使う案もあった。C 地区と B 地区に決まっても、D 地区は距離的にも中途半端になるため迷っていた。1 校で D 小の校舎を使えないというのは保護者の説得は難しい。地域感情のためにいろいろな提案を出してもらっているが、今回の案は、地域感情を逆なでする提案になっている。それを伝えたい。

(委員 H)

B 小としては 1 校化の意見が多かったが、現状維持の意見もあった。前回は伝えたが、統合が避けられないのであれば統合する。それであれば、学校の機械化、IT 化、効率化をいかに子供たちに還元するか、魅力的な学校にしたいという意見であった。各校の保護者や学校関係者に共通のアンケートをしてもいいと思う。

(委員 E)

100 人いれば 100 通りの意見が出る場合もある。ある程度の意見をまとめてこの場に出さないと、堂々巡りになる。個別の意見があってもいい。しかし、各団体等の意見として、多数の意見を 1 つ出し、反対意見を紹介するのはよい。この会も、最終的には民主主義なので多数決もある。メインの意見を出し合って提言にまとめればいいのではないか。

(委員 I)

C 小、保育所もこの会の前には必ず保護者会を開いて全員で意見を出し合っている。C 地区としては、10 年度の統合と 1 校化というのは変わっていない。場所については、B 地区という意見も多いが、C 地区に残したいという意見もある。

(委員 K)

多数決、民主主義は理解できるが、個人ではなく、保護者会代表として参加しているので、保護者一人一人にアンケートを取り、意見を数値化し、それを大事にしたい。私は、統廃合の是非についてしか尋ねていない。場所についていろいろな案について数値で見えるのも大事である。統合は賛成だが、それぞれ自分の場所、島になるだろうということで、思考が止まっている方もいる。他のパターンも提示するのがアンケートだと思うので、是非、取りたい。その上で臨めば、その後はすごいスムーズに進むと思う。導入部分にいろいろなギャップがあり、様々な情報が後から出て、それらを保護者に説明した上で、臨まなければいけないので、少し停滞している。まず前提を揃えるべきで、その後はスムーズに進むはずであ

る。

(委員E)

いい意見だが、それだとなかなか進まない。参加者は代表者としてきているので、ある程度会を進行しなければならない。ここは決定の場ではなく、提案するところと認識している。アンケートは時間がかかる。統合するかどうかという意見交換の中で、出てきた意見を集約して、ここで発表する。あくまでも教育委員会への答申である。ある程度PTAにも理解いただきたい。今だけでなく、後の子供たちを考えていく必要がある。

毎回同じような話をするのではなく、答申として教育委員会に出していくべきではないか。全員賛成はなかなかない。多少の我慢は必要である。自分も地区代表ではあるが、地区の意見を全て聞いているわけではなく、個人の意見であり、必ずしも地区の全員の意見ではない。

(委員K)

統合についてはやむを得ないという意見は、前回も出ていたので、検討委員会として、統合を目指すというのは言えると思う。ただ、小、中1校はわからない。場所等を選ぶ中で、1校か2校か現状かを話し合うべきではないか。

(委員C)

今日は第3回目の検討委員会だが、同じような話が多く出ている。スピーディーに決めるべきではないか。1点2点は決定していきたい。10年度統合は決定でいいのではないか。さらに1校に合併するくらいのことは今日決めたいと思う。

(委員L)

自分は保育所代表として参加している。毎回保護者全員と話をするわけではなく、自分の意見を発言すると話している。つまり、自分の発言に責任を持っている。自分の意見を発言する中で当然賛否はあるが、代表である以上自分の意見を通す。それぐらいの気概を持って進めないと進まない。

C保育所としても一貫して1校化を望んでいる。D小は耐用年数の問題がある。C小は運動場が狭い。しかし、かつて1学年で50数人でもあの運動場で大丈夫であった。できないことはない。また、海光園隣のグラウンドで体育をしたこともあった。どうにでもできるが、子供たちにとってそれがいいのか。B小は確かに高台にあり、運動場も広い。中学校に兄弟姉妹がいると連絡が取りやすい。B小とD中を使うと、災害時、保護者はどうするのか。だったらB小・B中もありである。子供のことを考えた上で、親として子供のためにできることとして、その点も考えるべきではないか。通学バスの時間は、C地区から中学校まで通学バスだが、そこまで早くはないです。C地区経由でD地区、B地区にバスを出すのではなくて、1校化で進めるなら、C地区からもD地区からもバスを出す等を行政に持ちかけるくらい話をしないと、進まない。早いうちに決められるところまで決めてから、次の問題にかかる方がよいのではないか。

(事務局A)

様々な意見を出していただくことは、ありがたい。前回は発言したように、統合時期によっては早々に方向性を出さないといけない。それを踏まえた議論をしていただきたい。

(委員長)

多くの意見をいただいた。統合の形態について、「A小・中学校を除く、小学校1校、中学校1校での統合を目指す」ことを答申内容とする方向でよろしいか。

(委員J)

D小が該当しないことを知ったので、今日、D小代表として小学校1校化を答申内容に入れるのは無理である。保護者にD小が候補に入らなかったことを説明してからでないと、小学校1校中学校1校というのは、今日は決められない。

(委員I)

D小が使えないのは、以前から資料にあった。なぜ、その話ができていないのか疑問である。C地区は回を重ね、細かな点まで全て話し合っていて決めている。準備不足ではないか。

(委員K)

D小の更新についてここで話し合おうと思っていた。確かに認識不足であったかもしれない。ちょっと面食らった感じなので持ち帰らせていただきたい。ただし、統合に関しては概ね了承しているので、統合の話はしていていいと思う。

(委員長)

一応「小学校1校、中学校1校での統合を目指す」という方向で進めて、よろしいか。D小の場合は難しいかもしれないが。

(委員C)

小学校10年統合で1校を目標に、場所はこれから決める。D小は耐用年数を経過しているため使用しないという話を持ち帰って説明し、進めていかないか。

(委員E)

「建て直しや改築かかる費用は莫大で町の予算では、難しい。新校舎建築では1/2しか補助が出ない。残りは住民の税金である」と説明して、本回では小学校10年度1校統合となったと報告すればよい。D小の校舎にお金を掛けてまで直すというのはなかなか難しいと思う。なんとかPTAの皆さんに説明していただきたい。

(委員J)

教育委員会から同じ内容のアンケートを保護者を取る場合は、検討委員会で内容を確認してからにしていきたい。

(事務局A)

アンケートは令和4年度の時も取っている教育委員会が取るのではなく、検討委員会を取る形である。例えばD地区を小中一貫校にし、他地区は通常の小中学校となったときに、この小規模校の中で、D地区の児童生徒だけそこに行かせるわけにはいなくなる。小中一貫校を選択する他地区の児童生徒もあれば、D地区から一貫校じゃない方がいいという場合もある。小規模校の中で、そういう選択で片方は激減するなどの可能性があるため、今は

考えにくい。教育委員会ではそのようなアンケートは取れないため、選択肢は狭まる。そういう意味で取るのであれば、前回同様、検討委員会で取っていただく。

D小の校舎の件は、誤解なきように再度説明するが、第1回の検討委員会でも言ったが、9年度末で60年を迎え、直ちに使えなくなるわけではない。ただ資料にもあるように、最短で10年度で統合した時に、D小を残したとすると、翌年から再度、耐用年数を含めて統合のことを継続して検討しなければいけない。また、上島町が定めた計画の中に、決定ではないが、個別施設計画を立てた令和3年3月、2年度末にすでにD小は53年ぐらい経っていた。51年を経過した施設については大規模改修を行わないという方向性を出していたため、絶対できない訳ではないが、他の校舎があるので、D小に関しては大規模改修を行わないという方向性である。

(委員J)

発言していない人がいるが、発言しないのか。

(委員代理N)

D保育所の意見交換は少ないと思った。危機感を持って考えていかなければいけないと感じた。D保育所全体としての統合に前向きな保護者が多いが、具体的に決まってないところが多く、どこから考えるべきかわからない部分がある。場所等具体的に話し合いたいと思った。個人的な意見だが、私は統合に賛成で、ぜひ子供たちに集団で学習してほしいと思っている。1校になった時に学校に来づらくなる子が出る可能性もある。使わなくなった校舎に行きづらくなっている子が行けるような居場所を作る等、具体的な案として考えていただきたい。

(委員D)

統合の形態については小学校1校、中学校1校で、時期については最短で令和10年4月。統合場所についてはB地区でいいと思っている。

(委員B)

検討委員会からのアンケートとの意見があったが、各PTAで取ったらいいのではないかな。方向性はほぼ決まったので、全体で実施していくと時間が掛かりすぎる。スピード感を持たなければ、いつまで経っても決められない。

(委員A)

場所等具体的なことを尋ねるアンケートでなければ、意味のあるものにならない。議論が振出しに戻っている気がする。

(委員代理O)

B中PTA会長代理で参加している。B中では、特に動きはなく、関心が薄いようである。現状維持でも、統合でも決定に従うということではないかと感じる。個人的には、小学校1校、中学校1校に賛成である。上島町が合併して、20年で人口6000人。約4割減っている。6000人のうち1割は弓削商船の学生であり、それを除くとかなりの高齢化率である。人口減少が進んでおり、町自体もコンパクト化しなければならない。D小は地域と関わりが

強い学校で、残したい気持ちはあるが、新築・改修しても10年後に何人が通うのか。そこに支出するのであれば、上島町を一つとして考えて、上島の真ん中であるC地区に小学校を新築し、みんなが集まる方が良いと思う。少しずつ整理し、子供たちのために上島町を存続させないと今のままで校舎新築等に支出をすると、上島町がなくなってしまうのではないか。1校でいいと思う。B小・B中の案もあるが、D地区からB小は距離があり、30分はかかるので、個人的な意見ではあるが、小学校はC小、中学校はB中でよいと思う。今日の内容をPTA会長に伝え、きちんと考えていきたい。

(委員G)

統合の仕方が決まれば、統合後の教育環境について、子供たちを中心に考えて、話し合いができるのではないか。

(委員C)

認識として、10年度小学校統合、小学校・中学校1校ずつの方向性になったと考えてよい。

(数名委員)

よい。

(委員C)

次回は、具体的な場所について話し合っていきたい。

(委員J)

D小はまだ、悩んでいる。

(委員C)

一つの方向として伝えてほしい。

(委員長)

本日の話し合いではA小中学校を除く、小学校・中学校各1校への統合を目指すこと、令和10年度小学校の統合を目指すとする。よろしいか。

(事務局B)

本日、一つの方向性が出た。中学校に関して、事務局としては、小学校との連結を考慮し、11年度で考えているが、そこを目指すとしてよろしいか。

(委員D)

岩城中が不参加である。

(事務局B)

今回は委任状もつけて、依頼はしているが、都合がつかないとのことである。

(委員J)

D中が不参加で結論は出せないのではないか。

(事務局B)

D小PTAからも話を入れておいてほしい。

(委員J)

了解した。

(事務局B)

小中1校ずつ、小学校10年度、中学校11年度の統合の方向を目指すとしてよろしいか。

(各委員)

はい。

(副委員長)

児童生徒数の推移によると、R10年度の中学校は中3が36人になっている。R11年度を目指すということでよろしいか。R10年に小学校1、R11年に中学校1を目指すという共通認識を確認したい。

(事務局A)

補足として、R10年度に中学校も統合となると、R10年度中3生が35人前後で規定では36人になれば2クラスとなる。35人1クラスか、36人で少人数2クラスになるか、特別支援学級の関係もありますが、生徒、保護者にとっての不安定要素になると予想されるので、小学校からのスムーズな入学も考慮し、11年度と事務局では考えている。

(3) 今後の検討委員会の予定

(事務局B)

今回の意見をまとめ、次回資料としたい。各団体・地域で話し合いをしていただきたい。日程について、日曜開催しているが参加が難しい方もおられる。他の曜日での開催はいかがか。

(委員L)

夕方開催ではどうか？

(事務局B)

A地区が不可能である。

(委員L)

日中は難しい。PTA代表での参加であり、子供がいるのは必然である。子供の部活動等により参加ができなくても仕方がない。

(事務局B)

今回は委任状を送付し、代理出席も可能とした。次回についても、日曜開催で調整させていただきたい。また、委任状も送付する。

またスピード感を出すため、8月末の開催で調整させていただきたい。日程が決まり次第、案内状を送付いたしたい。

4 閉会